

選考委員長からの講評

<2022 年度研究助成選考に当たって>

今回も非常に多くの、しかも優れた応募をいただき、厚く御礼申し上げます。応募書類を検討させていただきますと、そこから、まさに現代日本の「社会安全の課題」の変化を読み取ることができるように思います。皆様の応募された問題は、すべて、時宜に適ったご研究対象だったと評価しました。研究方法も、ほとんどが、現在の学術レベルの水準を超えたものでありました。

それにもかかわらず、コロナ禍などによる財団の財政状況等により、助成の枠は、昨年同様。抑えめにせざるを得ませんでした。研究目的、研究手法、得られる成果の期待度などが高く評価されたもの全てに助成できなかったことは、誠に残念だと考えています。最終的に選考された研究に比較しても、研究レベルとしては同等のものが、かなり含まれておりました。

ただ、今回は、「一般助成」と比較して、そして本助成の過去の応募を概観しても、「若手助成」が、質量ともにやや低調だったように思われました。その結果、採択された若手研究は、昨年より減って、2本になってしまいました。本助成の開始時の「原点」には、若手の育成により、安心安全研究の裾野を広げるという考えがあります。今後の学問研究の発展を考えますと、若手研究者の積極的な挑戦を期待したいと思います。

前述のように、安心安全の課題はどんどん変化していきます。それに対応していただく人材育成のお役に立てることが、本助成の最大の意義だと考えています。研究方法が荒削りでも、挑戦する意欲を高く評価したいと思います。次回の助成に際しましては、その点を特に重視する所存です。

コロナ禍による社会の大きな変動が、どのような形で展開していくか、そしてそれが「安心安全の問題」にどのようなインパクトを与えるかをも踏まえ、応募された皆様が今後とも、一層積極的に研究に取り組まれますことを祈念申し上げます。そして、景気の回復などにより、助成枠が拡がることも、心から願っております。

選考委員長 前田雅英